

より開かれた学校づくりと地域教育力の再生

PTCA 5年目を迎えた稲生小学校の取り組み

南国市立稲生小学校PTCA会長・清水歩未
同小・学校地域教育協議会会長・前田学浩



●はじめに

稲生小（児童数85名、平成21年7月現在）は、平成17年度よりPTAに地域を意味するコミュニティの“C”を入れたPTCA化により、更なる開かれた学校づくりと地域教育力の再生を実現



することを目標に地域との連携を推進していきます。Cの方々は、開かれた学校づくり推進委員を中心に、公民館長や民生児童委員、農業就労者、スポ

ーツクラブ指導者、昔遊び指導者などで構成されています。

●PTCA化へのスタート

前会長が平成17年度にPTA会長を引き継ぐ際に、前々会長と当時の校長先



生に「PTCA化を進めたい」と話がありました。2人の反応は、「今でも、地域の方は協力してくれているから、それほど必要はないのでは」ということ

でした。前々会長は、その4年前に前会長が広報部長をしていたとき、広報誌を近隣の施設に配布し、“PTCA化への布石”だと、言っていたのを覚えていて、その席での反対はそれ以上ありませんでした。また、校長先生も「やってみましょう」ということになりました。

地域の方に始めて話したのは、その年の6月の第1回「開かれた学校づくり推進委員会」です。そこで、長崎県のHPの資料を使って、PTCA化の重要性を説明しました。話の後、一人の地域の方が、「君らがそう思うなら、したらい」といつてくれました。地域の方が信頼をしてくれているということが認識でき、PTCA化の成功を予感しました。

●広報誌の毎月発行と夏まつりの復活

PTCA化の了承をしていたのを機会に、広報誌を年3回から、15回の発行にしました。

